

# 次世代へ託す

# 神舞奉納

10月23日（日）夜、都萬神社において神舞が奉納されました。

同神社の神舞は、戦時中より途絶えていましたが、大崎伝統芸能保存会（小屋健二会長、発起人中野孝喜さん）が中心となり、約2年にわたって準備を進め、昨年、商工会青年部員により70年ぶりの復活を遂げました。

奉納に先立ち、同保存会長が、「保存会のメンバーは、9月から練習を重ねてきました。また、今年は、町青年団の方々にも加入いただきました。『神舞』が郷土愛を育くむ伝統芸能となるように、地道ではありますが、未永く伝承していきたい。」と挨拶されました。

舞台では、巫女による『豊栄乃舞』に続き、『弓舞』『四人鬼神舞』『剣舞』など勇壮な神舞、7段を次々と奉納しました。

境内は、時代を錯覚してしまふような雰囲気包まれ、訪れた人々を魅了しました。



▲大崎伝統芸能保存会の皆様

## 都萬神社の神舞について

言い伝えによると神舞の祭りでは、神舞面をつけて、日暮れから夜通し舞い続け、日の出を見て舞い納めていたそうです。しかし、太平洋戦争によって途絶えていましたが、幸いなことに野方の照日神社が明治26年に受け継ぎ、現在まで踊りつがれてきました。

昨年、発起人の中野孝喜さんが中心となり、野方神舞保存会協力のもと、70年ぶりに奉納されました。

今年、大崎伝統芸能保存会には、この伝統を絶やしてはならないと賛同する若者が新たに仲間入りし、次世代への伝承活動に新たな1ページが刻まれました。